

## 平成 30(2018)年度 第 3 回とちぎ夢大地応援団カレッジ

### 「大田原市 中野内地区」

#### 活動報告 H31.2.9(土)

2月9日、大田原市中野内地区にあるイチゴ農家で「とちぎ夢大地応援団カレッジ」活動を実施しました。作新学院大学サークル（作大ローターアクト所属）の学生たちが、イチゴの苗や芽かき作業を行いました。

カレッジ活動は県内の大学生や短大生、高校生を主な対象として、毎年県内各地で開催しています。次世代を担う若い世代に、農業体験や農村資源の保全活動に携わってもらい、農業作業の役割の理解促進を図っています。

この日は、教職員 3 名を含む計 17 名が参加。大田原市中野内のイチゴ苗育成農家、益子鐵雄(72)方のハウスで、イチゴの管理に関わる農作業を行いました。

学生にとっては初めての経験。終始腰をかがめ根気のいる仕事でしたが、熱心に取り組みました。昼は益子さん宅でピザを焼いて交流し、笑談の輪が広がりました。

同大人間文化部 4 年の土屋恵太サン(22)は「実際に作業し、交流することで、農家の実情を知ることができた。農業が身近になった」と感想をいただきました。



▲作新学院大学の学生の皆さんです。当日は生憎の雪模様で、大変肌寒い中、熱心にイチゴの管理作業を行っていただきました。農家さんもとても感謝されていました。



始めに開会式を行いました。まずは、大田原市中野内にあるイチゴ農家益子さんから、参加した生徒の皆さんへエールを送りました。

イチゴは出荷するまで大変な手間がかかり、採れたイチゴもとてもデリケートで、流通過程で神経を使うお話しなどを聞きことができました。



益子さん夫婦が身ぶり手ぶり、農作業を解説しました。簡単な作業でしたが、ちょっとしたコツが必要で、真剣にお話を聞いていました。

参加した生徒さんからは、イチゴの管理作業はとても大変な作業が伴うと驚きの声が上がっていました。食べ物への感謝の気持ちも改めて見直したようです。



益さんは、ハウス内を巡回しながら、丁寧に指導していました。また、生徒の皆さんも飲み込みがとても早く、しばらくするとすぐに作業に慣れ、次々に葉かき作業をこなしていきました。

地味な作業がつづきましたが、農業を肌で感じることができ、貴重な体験ができたのではないのでしょうか。



昼食時の様子です。自家製のピザ釜で焼いた出来たてのピザをいただきました。

また、温かなけんちん汁やかき揚げ、おこわおにぎりなどのおもてなしをうけ、お腹いっぱいにご飯を食べました。大変寒い一日でしたので、農家さんの暖かさが身に染みます。